



# 学校だより 評価号

☎ : 075-231-0959 E-mail: kyogoku-s@edu.city.kyoto.jp

平成 28 年 12 月 16 日  
京都市立京極小学校  
校長 谷山 典子

## 平成 28 年度 前期学校評価について

今年度も前期終了前の 10 月中旬に平成 28 年度前期の学校評価アンケートを行いました。保護者の皆様にはお忙しい中ご協力いただきありがとうございました。本校では「進んで学び、今をたくましく生きる子」を学校教育目標として、日々の教育活動を進めております。この目標に向かって更により良い京極小学校教育の充実と発展をめざしていきたくと考えています。

右側に、児童アンケートの全体結果と、保護者アンケートの全体結果をグラフで示しました。各質問には 4 つの選択肢で回答していただきました。なお、教職員全体結果につきましては紙面の都合上掲載していません。

<b>A</b>	よくできている	<b>B</b>	おおむねできている	<b>C</b>	あまりできていない	<b>D</b>	できていない
----------	---------	----------	-----------	----------	-----------	----------	--------

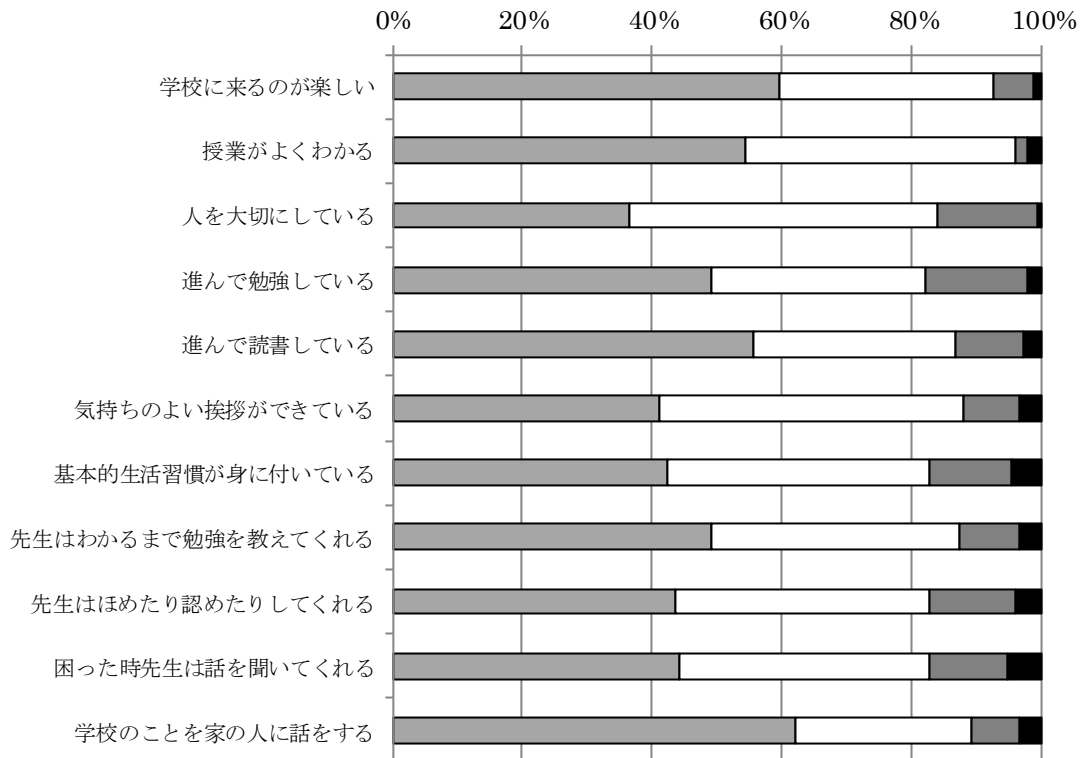
まずは学校に来るのが楽しいかどうかについて、27 年度後期のアンケートの結果は、保護者の半数近くが「あまり楽しそうではない」という回答でした。それに対して今回は「あまり楽しそうではない」との回答はわずかで、「楽しそう」「おおむね楽しそう」という回答が 97% に達しました。この結果は学校としても大変うれしいことです。これまでも目指す学校像として第一番目に「楽しい学校」を掲げてきました。引き続き「楽しい学校」を目指していきたくと考えています。

しかしながら、児童の 8% が「あまり楽しくない」または「楽しくない」と答えています。子どもにとっての楽しさはそれぞれに異なってくると思いますが、どの児童にとっても学校に来ることに期待感がもてるように、そして達成感や自己有用味の味あえる学校づくりを目指したいと考えています。

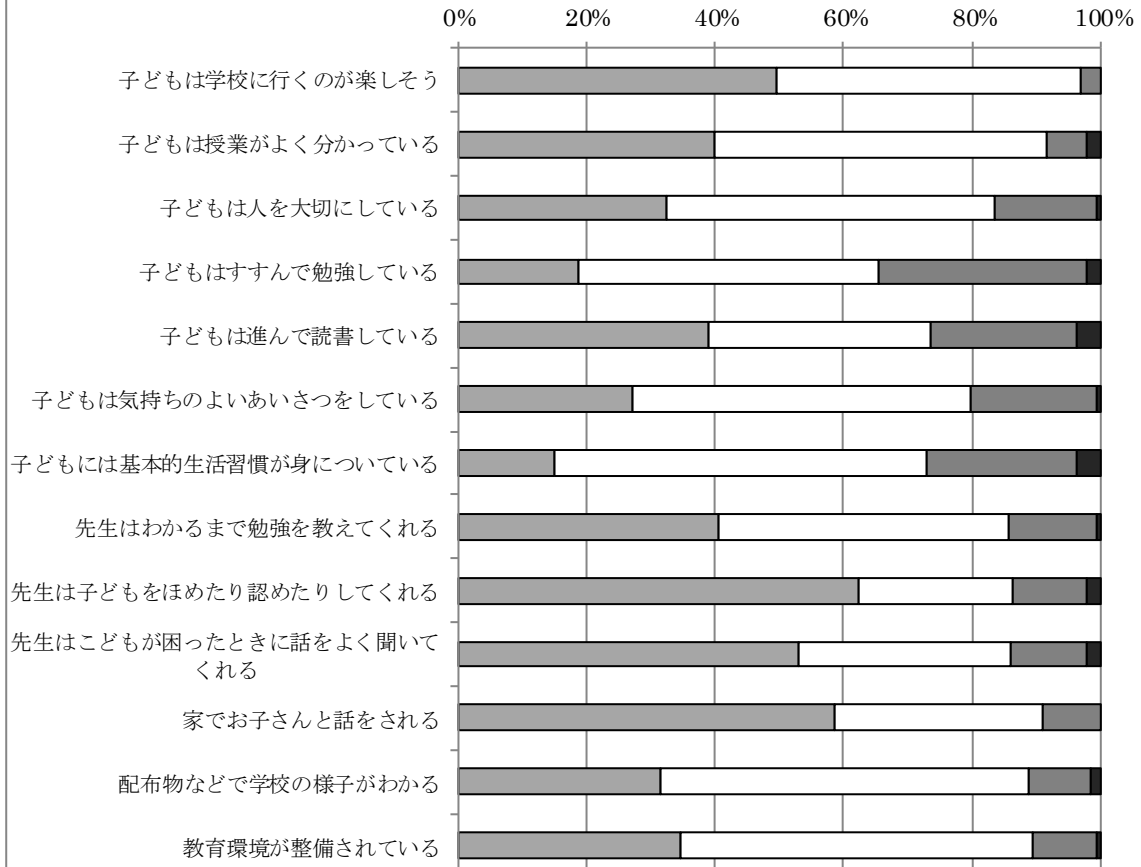
次の「授業がよくわかる」の質問については子ども達の A・B 評価が 95% だったのに対して、保護者の A・B 評価は 90% にとどまっています。また、教職員においても同じく A・B 評価が 90% となっています。この結果は昨年度とほぼ同じです。教師自身が子ども達に「わかる喜び、できる楽しさ」が実感できるよう授業改善を進めていかなければならないと感じています。

3 番目の質問「人を大切にしているか」については児童、保護者ともに昨年同様 20% 近くが C・D 評価です。また、教職員では 30% 以上が C・D 評価となっています。学校においても、自分も友達も大切にできる人になろうと日頃より人権教育を進めています。全校の集会として、年間 3 回の人権タイムと、年 1 回の「人権集会」などで人を大切にするの意を考へています。頭の中ではわかっているのだけれど、実施に行動に移すことがまだまだ不十分なようです。(裏面に続く)

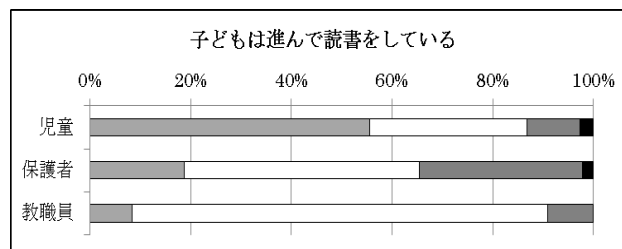
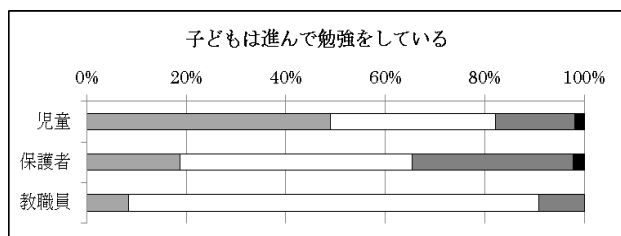
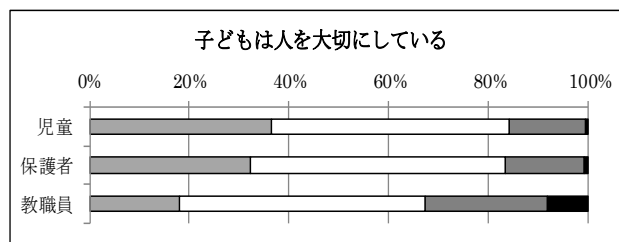
### H 2 8 前期児童アンケート（全体）



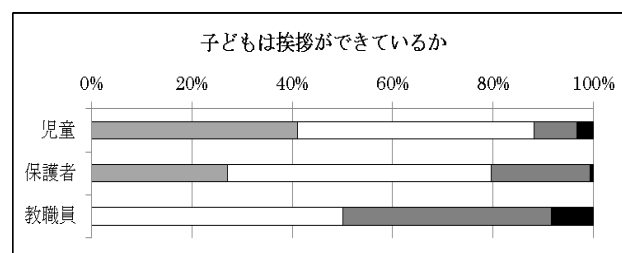
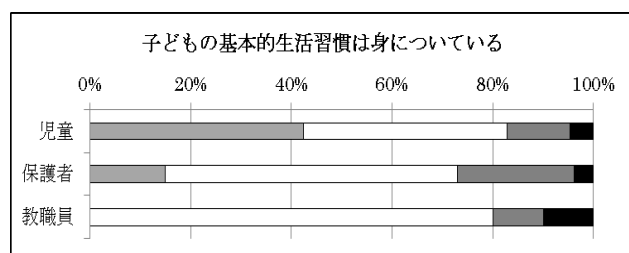
### H 2 8 前期保護者アンケート（全体）



また、どんな場面でも、相手を大切にする心は必要です。学校での学習や取組が形だけで終わるのではなく日常生活に生かしていけるよう、学校と家庭、地域が連携していくことにもっと努力していかなければならないと感じました。

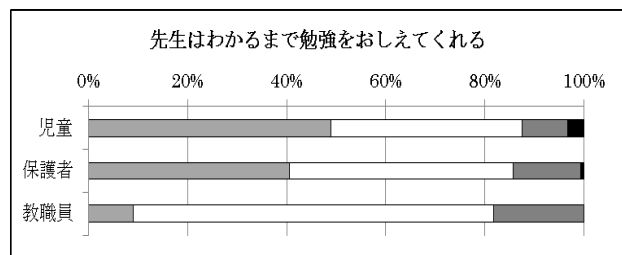
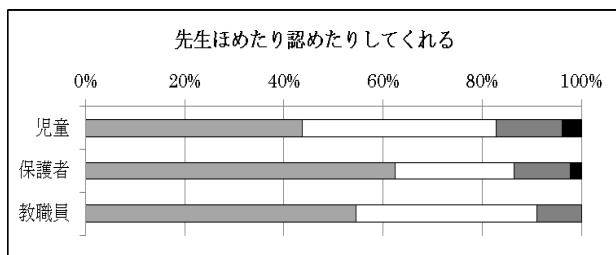


次に子どもは進んで勉強や読書をしているかについてです。子ども達の80%以上、そして教職員の約90%は進んで勉強や読書をしていると答えているのに対して、保護者は70%以下の数値です。これは児童、保護者、教職員の三者の視点や期待値のちがいがから出てくるものではないでしょうか。それぞれががんばっていることに関してはしっかり認め「もっとできる」と思った場合は、どのように工夫すればよいのか、具体的に示すなどの工夫をしていく必要があります。個々に目標を決めて、それに向かっていくような励ましが必要だとあらためてわかりました。



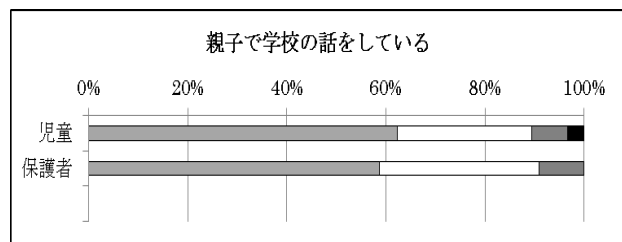
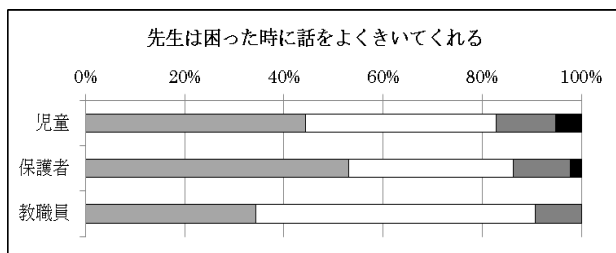
基本的生活習慣とあいさつについてです。「はやね・はやおき・朝ごはん」は健康な体づくりだけでなく、心の安定や学力の向上にもつながるというのは、最近の研究から明らかになっているところです。それに加え、整理整頓、準備や後片付けなどがあります。学年が進むにつれてA・B評価が多くなると予想されますが、実際はそうではありません。つまり、その学年に応じた基本的な生活習慣の確立が必要で、その発達段階や実態に応じて、保健指導や学級指導、日頃からの声掛けを進めていきたいです。

また、あいさつに関しては27年度と同じ傾向がみられます。子ども達は90%近くが気持ちのいいあいさつができていると回答したのに対して、保護者は80%、教職員は50%という低い結果です。どうも、子どもができているというのと、大人ができていると感じるのに差があるようです。どのようなあいさつが気持ちよいといえるのか、大人が手本となることも大事です。そして、あいさつは人権意識や規範意識とも結びついています。相手の人権や、社会でのルールやマナーを大事にできる子どもに育つよう、学校、家庭、地域が連携して取り組んでいきたいです。

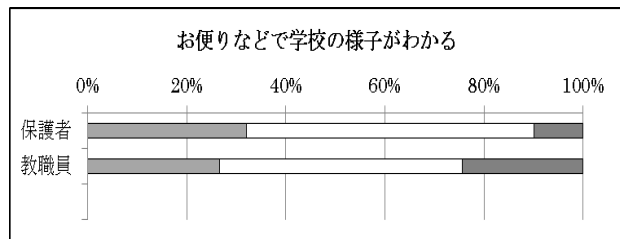
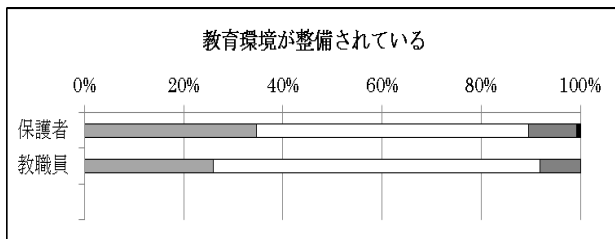


「先生はほめたり認めたりしてくれる」「先生はわかるまで勉強を教えてくれる」「先生は困ったときに話をよく聞いてくれる」という質問に対して、児童、保護者、教職員ともにA・B評価が80%以上となっています。しかしDと答えている児童が、どの項目においても5%程度いました。

先程の「進んで勉強している」「進んで読書をしている」の項目と合わせて考えてみると、大人にとって「それくらいは当たり前」と感じることで、子どもにとっては「がんばってできたこと」かもしれません。「できることが当たり前」としてしまうのではなく「できたこと」をしっかり認め、ほめていくことが自尊感情の向上につながります。子どもが本当に頑張っている姿を見つけ、そして認め、そのことに対して十分にほめていくことを積み重ねていきたいです。それらのことが、教職員と児童との信頼関係を深めていくことにもつながると考えています。子どもの心に寄り添い、困ったときに話を聞き、手を差し伸べることができる大人でありたいと考えています。また家庭内で、親子で学校の話をしているかどうかについては、90%の児童、保護者が話をしていると回答しました。



学校環境については、お便りなどで学校の様子が変わると回答いただいた方は90%でした。教職員は80%に満たない回答で、今後もっと学校の様子を知らせていかなくてはならないと考えています。また、教育環境の整備については、必要なところから改善していくよう計画しています。掲示物や校内の整理整頓など、学びにふさわしい環境づくりにも日々取り組んでいきたいと思っています。



最後に、保護者アンケートでの自由記述欄からも貴重なご意見をいただきました。どのご意見も子ども達のこと、学校のことをよく考えて書いていただいていると感じています。具体的な改善策を記述してくださった方もあります。すべては京極小学校の子ども達がより良く成長できるようにと願って、ご回答いただきましたことに感謝申し上げます。

今回の学校評価アンケートの結果を真摯に受け止め、今後の学校運営にしっかりと反映していけるように努力してまいります。どうもありがとうございました。